

尾瀬学習プログラム —山小屋宿泊編—

群馬県自然環境課尾瀬保全推進室
群馬県教育委員会義務教育課



山小屋宿泊編について

「群馬の子どもは一度は尾瀬を訪れ、質の高い自然体験をしてほしい」との願いのもと、尾瀬学校は平成20年度から始まり、6年目となりました。これまで、5万人以上の子どもたちが尾瀬を訪れて、自然を守ることや環境問題に対する興味を高め、尾瀬を訪れた約7割の子どもたちが、意識調査で「また尾瀬に行きたい」と答えています。

現在、ほとんどの学校が日帰りの日程で尾瀬学校を実施しています。しかし、子どもたちが、尾瀬に泊まらなければ見ることのできない景色の素晴らしさ、尾瀬のもつ多様な魅力をじっくりと深く感じたり、山小屋での入浴の際に石鹸等が使えないことを体験したりすることによって、環境学習の一層の充実と豊かな情操を養えることが期待されます。そこで県では、宿泊を伴う実施を一層推進したいと考え、平成23年度から尾瀬の山小屋に宿泊して実施する尾瀬学校に対し、補助を拡充してきています。

山小屋に宿泊して尾瀬学校を実施する場合の効果と注意点を、本書でご紹介したいと考えております。これを参考に、今後、尾瀬学校の実施に際し、山小屋での宿泊について、検討いただければ幸いです。



目 次

1	山小屋宿泊のよさ	2	ページ
2	山小屋に宿泊する場合の事務手続きの流れ	7	ページ
3	宿泊地区別モデルコース	8	ページ
4	山小屋一覧	9	ページ
5	宿泊実施における指導例	11	ページ
6	山小屋宿泊 Q&A	13	ページ
7	尾瀬ヶ原での危険に備える	15	ページ
8	緊急時の連絡について	19	ページ
9	トランシーバー Q&A	20	ページ
10	その他の尾瀬学習プログラム	22	ページ

1 山小屋宿泊のよさ

(1) 尾瀬ヶ原を散策する時間が増え、より多くの尾瀬の魅力にふれることができます

日帰りで尾瀬学校を実施した場合、学校からの距離にもよりますが、尾瀬ヶ原での活動時間は2時間程度です。山小屋への宿泊を伴う尾瀬学校を実施した場合、7時間程度になります。

日帰り 実施例	時刻	6:15	6:30		9:00	10:30			13:30	15:00		17:30
	行程	学校集合	学校出発	バス移動	尾瀬鳩待峠着	山ノ鼻地区 到着	尾瀬ヶ原散策	昼食・休憩	尾瀬ヶ原散策	山ノ鼻地区 出発	鳩待峠出発	バス移動

尾瀬ヶ原活動時間
日帰り・・・2時間程度

山ノ鼻地区の 山小屋宿泊 実施例	時刻	6:45	7:00		9:30	11:00					16:00	16:30	19:00	20:30
	1日目行程	学校集合	学校出発	バス移動	尾瀬鳩待峠着	山小屋 荷造り 到着	昼食・休憩	尾瀬ヶ原散策				山小屋 到着	風呂・夕食	夜の活動

山ノ鼻地区の 山小屋宿泊 実施例	時刻	5:30	6:00	6:40	8:00					12:00	13:30		16:30
	2日目行程	起床 洗面等	早朝散策	朝食・荷物整理	汚水処理の見学等	尾瀬ヶ原散策				昼食・休憩	山ノ鼻地区 山小屋 出発	鳩待峠出発	バス移動

尾瀬ヶ原活動時間
1日目・・・4時間程度
2日目・・・3時間程度
合計 7時間程度

※その他に夜の活動
や早朝散策、施設
見学なども行える。

① 増えた時間を利用して歴史や成り立ちについて、尾瀬認定ガイドさんからじっくりと話を聞くことができます

尾瀬認定ガイドは、高い技術と尾瀬に関する専門的な知識を有しています。事前の打ち合わせで現地において指導してほしいこと、触れてほしいことなど学校の要望を伝えると、尾瀬学校での活動がより充実します。

② 尾瀬ヶ原での活動時間が増えると、たくさんの植物や動物に出会えます



オゼコウホネ



ヒメシャクナゲ



ミズバショウ



ミツガシワ



ワタスゲ



オコジョ



ニホンイモリ



モリアオガエル



モリアオガエルの卵塊

③ 尾瀬は、雨に降られても充実した活動ができます

雨の日の尾瀬の過ごし方

台風や豪雨などの荒天以外は、雨の日でも実施することが多く、今まで実施された尾瀬学校を見てみると、6月上旬や10月上旬などの気温が低い時期を除けば、児童生徒たちは、雨の中をカッパを着て歩くことも楽しんで活動しています。

出発地が晴れていても尾瀬は雨という場合もあります。天気予報で尾瀬戸倉地区の天気をこまめにチェックしておく必要があります。

尾瀬保護財団のWebページ上の「今朝の尾瀬山ノ鼻」で最新の天気予報などをお知らせしているので、前日・当日（朝7時更新）に確認したり、同行するガイドさんと連絡を取り合って天候を確認したりして、当日の行程を決めるとよいでしょう。

急な雨に備えて、事前に山の鼻ビジターセンターの利用申込をしておくとう安心です。山の鼻ビジターセンターは、雨天の場合のみの利用も受け付けています。

山の鼻ビジターセンターを利用しよう

尾瀬山の鼻ビジターセンターには尾瀬保護財団の職員が常駐し、尾瀬の自然についての情報提供を行っています。職員が収集した毎日の自然情報が館内に掲示されています。また、野外自然観察と環境保全施設見学やスライドレクチャーなどが受けられます。山小屋に宿泊する場合の夜の活動での利用や雨天の場合等で利用ができます。

- (1) 利用料金：無料
- (2) 実施時期：5月下旬～10月中旬
- (3) 実施日：原則として実施期間中の毎日
(ただし、繁忙期は対応できない場合があります)
- (4) 実施内容：

< A 野外自然観察と環境保全施設見学 >

研究見本園での自然観察と浄化槽見学等で60分程度となり、概ね10名ごとの班別行動となります。3班を超える場合は、人数の調整か、館内レクチャーに振り替えをお願いします。

< B 館内レクチャー >

館内においてスライド等を使って、各学校から要望に応じた内容で実施できます。レクチャールームの部屋の収容量の関係で1回の定員は小学生の場合約60名、中学生の場合約50名となります。

- (5) 申込期限：実施希望日の1ヶ月前まで
- (6) 申込時に伝えること

- ①利用日時 ②利用人数 ③実施内容（相談可能）
- ④利用形態（天候にかかわらず利用するのか、雨天の場合のみの利用か）



山の鼻ビジターセンターのプログラム例

プログラムの内容は、各学校の尾瀬学校の目的に応じてオーダーすることができます。下記に示したプログラム例を参考に申込時に相談して内容を決定しましょう。

< A 野外自然観察と環境保全施設見学 >

- 公衆トイレの浄化槽等の見学
- 見本園の説明

< B 館内レクチャー >

- 尾瀬ヶ原の成り立ちについて
- 尾瀬ヶ原に見られる植物
- 尾瀬ヶ原に見られる動物
- 尾瀬を守る仕組み（木道編・トイレの処理編）
- 尾瀬を守る仕組み（トイレチップ編）



(2) 児童生徒の体力の負担を軽減できます

① 宿泊する山小屋に荷物を置いてから散策ができます

宿泊のみに必要な荷物は、尾瀬の散策前に山小屋に預けることができます。夏場は、背負う荷物の量によって汗の量も変わってきます。散策の時に必要でない荷物は山小屋に預け、ナップザックに必要な荷物を入れ替えることで児童生徒の体力の負担を軽減することができます。

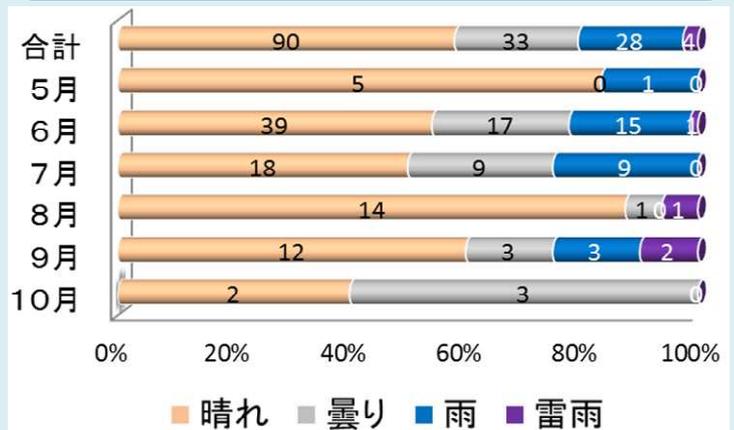


② 急な雨に降られても、活動後に山小屋で着替えができます

山の天気は変わりやすいものです。日帰りの尾瀬学校では、雨に降られた場合の着替えは、学校に戻るまで難しいものです。山小屋に宿泊することによって、山小屋到着後すぐに着替えができるようになるため、多少の雨でも尾瀬ヶ原散策が可能になります。

また、山小屋に戻り次第、風呂で汗や汚れを流したり冷えた体を温めたりすることができるようになります。

尾瀬学校当日の天候 <H24実施状況調査より>



コラム① 尾瀬認定ガイド制度とは

○制度の目的

尾瀬国立公園において、利用者に安全で快適な質の高い充実した自然体験を提供するために次のような資質や能力をもっているガイドを尾瀬ガイド協会が認定しています。

- ・高いガイド技術と正確な救急法を備えている。
- ・尾瀬と地域の魅力を解説できる知識と能力を持っている。
- ・自然保護の原点ともいえる尾瀬において自然保護の精神や環境保全、適正利用への理解と啓発を行うことができる。

○認定方法等

協会が定める基準を満たす者が、原則として協会が実施する次のような検定（筆記・実地）を受検し、合格した者が認定されます。

<筆記試験>

- ・尾瀬ガイド協会作成のテキストを中心に全100問の試験をする。

<実地試験>

- ・参加者（8～9名程度）で、尾瀬をリレーガイドし、その内容を講師がチェックシートによりチェックする。

（参考資料：尾瀬認定ガイド制度要綱）



(3) 日帰りでは味わえない尾瀬のすばらしさに出会うことができます

① 夜は、電気の無い暗さや山の静けさを体感できます

普段、私たちは電気による明かりと様々な騒音に囲まれているため、本当の夜の暗さを知りません。尾瀬には余分な街灯等がないため、尾瀬の山小屋周辺から少し離れると途端に漆黒の闇に包まれます。夜の活動を希望するときには、事前打ち合わせでガイドにその旨を伝えてください。同行しているガイドも同じ山小屋に宿泊するため、安全に留意しながら山小屋周辺の案内をしてくれます。



山小屋の夕暮れ



山ノ鼻付近の夕焼け



日没後の暗闇

② 普段と違う月の明るさ、星の数の多さを実感できます

尾瀬ヶ原では、街灯や建物の明かりが少ないため、月の見え方や見える星の量が全く違います。市街地では、街灯の明かり等により、2等星の星であっても見えないことがありますが、尾瀬ヶ原で天気の良いければ6等星くらいまでの星を肉眼で見ることができます。星は、明るさや色に違いがあることや天の川や星団のように星がたくさん集まっている場所があること、月明かりでも影ができることなど、尾瀬ヶ原で星空観察を行うと、新たな発見を得ることができます。



暗闇に広がる満天の星空



尾瀬ヶ原での夏の大三角



星の軌跡

③ 朝は、幻想的な朝靄(あさもや)の尾瀬を散策できます

尾瀬の早朝は大変幻想的です。東の空が徐々に赤く染まり、燧ヶ岳の南の稜線の明るみが増してきて、突然稜線から光がシャワーのように吹きこぼれてきます。振り返ると至仏山の上空がかすかに色づき、静かに流れる川や沢をかすかに染めていきます。朝陽が稜線から光の滝のように吹きこぼれる、言葉もでない一瞬のドラマを体感できます。



朝陽に照らされた水芭蕉



朝露



朝靄の湿原

(4) 山小屋での宿泊を通して、環境へ配慮した生活を体験できます

① 石けんやシャンプーを自主規制していることなどから、環境の保護について考えることができます

山小屋やキャンプ場には浄化槽がありますが、自然への影響を少なくするため、石けんやシャンプーの使用は自粛しています。

② 食事を残さない、ゴミの持ち帰り運動などから環境を守るための努力を知ることができます

尾瀬の美しい自然を守るため、尾瀬のゴミ持ち帰り運動は、昭和47年からスタートしました。尾瀬の山小屋での食事を残せばゴミになります。山小屋から出るゴミは、歩荷（ぼっか）さんが尾瀬ヶ原の外まで運んでいます。



尾瀬ゴミ持ち帰り運動



ゴミを運ぶ歩荷(ぼっか)さん



山小屋での食事の様子

③ 尾瀬ヶ原でのトイレの処理の仕方について学ぶことができます



2 山小屋に宿泊する場合の事務手続きの流れ

1 実施日・参加人数の決定	実施学年で実施日とおよその参加人数を決定します。山小屋によっては貸し切り可能ですが、原則として、混雑期や土日、祭日の貸し切りはできません。
2 山小屋の仮予約	尾瀬ヶ原内の山小屋の仮予約は、およそ1年前から可能です。山小屋への宿泊予約が終了した学校は、この後の実施日調査で、そのことを伝えることにより、優先的に実施日が決定されます。
3 第1回実施希望調査 (9月～12月)	市町村教育委員会を通して尾瀬保全推進室に実施希望日を提出します。尾瀬保全推進室にて、全体の日程を調整し、実施日が内定します。
4 第2回実施希望調査(2月)	市町村教育委員会を通して尾瀬保全推進室に実施希望日を提出します。第1回調査後の希望を受け付けます。
5 バスの予約	バス会社に、尾瀬学校の条件に合うバスを必要台数予約してください。(例:7m以上のバスは、鳩待峠まで登ることができません)
6 事業計画書の提出	市町村教育委員会が事業計画書を作成し、尾瀬保全推進室に提出します。
7 尾瀬学校実施日決定(4月)	尾瀬学校実施日や、担当するガイドが正式に決定します。当日の学習内容や日程等をつめてください。
8 現地の下見・山小屋やビジターセンターとの打ち合わせ	事前の下見は必ず行ってください。山小屋に宿泊する場合は、山小屋で食事の時間、入浴の時間、食事の内容、部屋割について打ち合わせを行います。尾瀬に同行するガイドも一緒に宿泊するので、ガイドが宿泊する部屋を確保してください。
9 担当ガイドとの打ち合わせ日及び事前学習日時の決定	ガイドが決定したら、チーフガイドと連絡を取り合い、打ち合わせ日及び事前学習の日時、事前学習の内容について相談し決定します。
10 チーフガイドによる事前学習と担当ガイドと打ち合わせ	チーフガイドが学校に伺い、児童生徒を対象に事前学習として尾瀬の成り立ちや尾瀬の自然等について説明します。打ち合わせでは、尾瀬学校の当日の行程や特に説明してほしい内容などについて打ち合わせをしてください。
11 尾瀬学校 前日	荒天や災害等により尾瀬学校を中止する場合には、チーフガイドやバス会社、山小屋に必ず連絡を入れてください。
12 尾瀬学校 当日	当日、荒天や災害等により中止にする場合は、中止を決定した時点で、チーフガイドやバス会社、山小屋にその旨を連絡してください。キャンセル料が発生した場合は上記の理由であれば、尾瀬保全推進室が、キャンセル料を負担します。

3 宿泊地区別モデルコース

※平成24年の落雷事故発生に伴い、尾瀬ガイド協会では「雷鳴が聞こえる時は尾瀬ヶ原に出ない」「片品村に雷注意報が出ている時は、牛首三叉路を越えない」という申し合わせが確認されました。このため、雷注意報が出ている時、**尾瀬ヶ原を長時間歩けない場合があります**。このことを考慮して、宿泊する山小屋を考える必要があります。

※当日の行程変更は、天候と現在地の兼ね合い等をふまえ、チーフガイドと学校で相談して判断します。

1 鳩待峠から入山し、山ノ鼻地区へ宿泊

モデルコース①【尾瀬ヶ原・研究見本園コース】 脚力度★

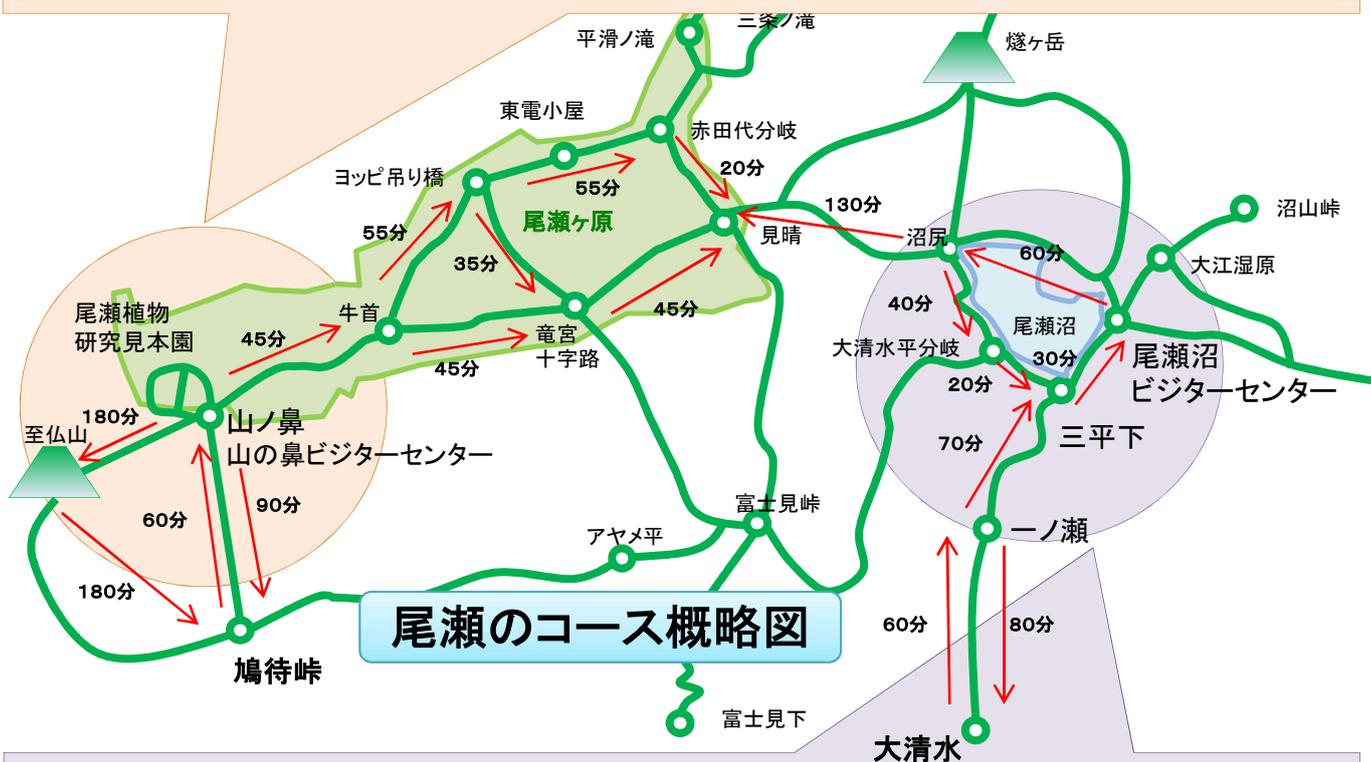
1日目 鳩待峠 → 山ノ鼻 → 尾瀬ヶ原 → 山ノ鼻地区山小屋

2日目 山小屋 → 山の鼻ビジターセンター → 研究見本園 → 鳩待峠

モデルコース②【尾瀬ヶ原・至仏山コース】 脚力度★★★

1日目 鳩待峠 → 山ノ鼻 → 尾瀬ヶ原・研究見本園 → 山の鼻ビジターセンター → 山ノ鼻地区山小屋

2日目 山小屋 → 山ノ鼻 → 至仏山 → 鳩待峠



2 大清水から入山し、尾瀬沼東岸へ宿泊

モデルコース③【大清水・尾瀬沼コース】 脚力度★★

1日目 大清水 → 一ノ瀬 → 三平下 → 尾瀬沼ビジターセンター → 尾瀬沼東岸山小屋

2日目 山小屋 → 尾瀬沼東岸 → 尾瀬沼北岸 → 尾瀬沼南岸 → 三平下 → 一ノ瀬 → 大清水

4 山小屋一覧



※表内の数等は平成25年7月現在の概要です。状況によって変化するので、詳細は電話等で確認してください。

地図番号	場所	名称	電話	収容人数	部屋数	食堂席数	風呂人数	貸切り最低人数
1	山ノ鼻	国民宿舎 尾瀬ロッジ	0278-58-4158	100	22	84	4~5 ×2	相談
2	山ノ鼻	山の鼻小屋	0278-58-7411 現地 090-3345-1783	100	17	40	2~4 ×2	約50
3	山ノ鼻	至仏山荘	0278-58-7311 現地 090-6946-3302	77	10	63	約4 ×2	38
4	尾瀬沼	尾瀬沼山荘	0278-58-7311 現地 090-3404-1264	50	7	30	3~5 ×2	25
5	尾瀬沼	長蔵小屋	0278-58-7100 -7443	180	31	86	7~8	平日別館 で約40
6	尾瀬沼	尾瀬沼ヒュッテ	0241-75-2350 現地 090-7064-4183	150	33	84	約12 ×2	約80

※表内の数等は平成25年7月現在の概要です。状況によって変化するので、詳細は電話等で確認してください。

地図 番号	場所	名称	電話	収容 人数	部屋 数	食堂 席数	風呂 人数	貸切り 最低 人数
7	見晴	尾瀬小屋	0241-75-2225 現地 090-8921-8342	200	36	64	約6×1 約8×1	日によって 相談
8	見晴	第二長蔵小屋	0278-58-7100 -7443	75	15	66	時間交代 5~6 ×1	約60
9	見晴	原の小屋	0241-75-2038 現地 090-8921-8314	173	26	約 60	約10 ×2	—
10	見晴	桧枝岐小屋	0278-58-7050 現地 090-3405-6460	100	13	63	5~6 ×2	日によって 相談
11	見晴	弥四郎小屋	0467-24-8040 現地 090-1456-7500	250	約 30	約 80	約10 ×2	日によって 相談
12	見晴	燧小屋	0241-75-2059 現地 090-9749-1319	99	15	60	約3 ×2	約60
13	赤田代	温泉小屋	0241-75-2222 現地 090-8921-8329	180	約 30	80	約10 ×2	相談
14	赤田代	元湯山荘	0278-58-7311 現地 080-6540-7312	103	16	42	5~6 ×2	50
15	龍宮	龍宮小屋	0278-58-7301	80	12	60	2~3 ×2	相談
16	景鶴 山麓	東電小屋	0278-58-7311 現地 080-5546-4763	90	13	41	約6 ×2	本館40 別館15
17	大清水	大清水小屋	090-1110-8022 現地 0278-58-7370	30	5	30	約2 ×1	—
18	大清水	物見小屋	0278-58-7026 現地 080-5003-4158	30	—	—	—	—
19	鳩待峠	鳩待山荘	0278-58-7311	66	7	36	3~4 ×2	30
20	富士見 峠	富士見小屋	0278-58-7441 現地 090-3098-2400	40	約 15	約 50	—	相談
21	御池	尾瀬御池 ロッジ	0241-75-2350 現地 090-7064-4184	80	19	約 80	約20 ×2	相談
22	渋沢	渋沢温泉小屋	0241-75-2105	80	16	30	3~4 ×2	何人でも 相談
23	会津 駒ヶ岳	駒の小屋	080-2024-5375	30	3	15	—	何人でも 相談

5 宿泊実施における指導例（山ノ鼻地区宿泊の場合）

1日目

7:00	学校出発	・健康観察	ポイント ・靴の泥を落とす理由を考えさせましょう。 ・森の木々や底に踏む鳥についてのガイドさんから話を聞きましょう。
9:30	鳩待峠 到着	・準備運動	
9:40	鳩待峠 出発	・入山口で靴の泥を落とします	
11:00	山ノ鼻地区 到着	・山小屋に入り宿泊用の荷物を置いて、小さいナップザックを持って出発準備 ・天気がよければ外で昼食（雨天時は山小屋の食堂等）	
12:00	山小屋 出発	・脚力に応じてコースに分かれて尾瀬ヶ原の散策 A ヨッピー吊り橋周り組 B 竜宮周り組	ポイント ・季節に応じて見られる動植物を、五感を使って感じさせましょう。
16:00	山小屋 到着	・健康観察	ポイント ・石鹸やシャンプーを禁止している理由を考えさせましょう。
16:30	入浴	・汗を流してサッパリ	
17:30	夕食	・残さず食べよう	ポイント ・食べ残した物は、どうなるか考えさせましょう。
19:00	夜の活動	①星空観察 ②ホテルの観察（7月） ③夜の暗闇体験 ④スライドレクチャー（山の鼻ビジターセンター）	ポイント ・普段見ることのできない天の川や星座、星団などを観察させましょう。 ・人工光や人工音のない世界を感じ取らせましょう。 ・天候が悪い場合はビジターセンターを活用しましょう。
20:30 21:00	就寝準備 消灯・就寝	・健康観察	

コラム② 子どもがトイレを利用するときもトイレチップは、100円/1回払うの？

- 尾瀬学習プログラムには、トイレ代について100円程度とありますが、小中学生の小遣いから考えると「1回当たりの金額は100円でなくてもよいのではないか」という話し合いが、県・教育委員会・ガイド間でもたれました。
- 「子どもたちに環境保全への意識をもたせるためにトイレ代はその都度入れるが、金額はいくらでもよい」という共通理解でおねがいします。



2日目

5:30	起床・洗面	・健康観察
6:00	早朝散策	・朝の散歩に出かけよう
6:40	朝食 お弁当の配布 荷物整理	
8:00	山ノ鼻地区見学等	・集合写真の撮影 ・ビジターセンター見学 ・トイレの浄化槽の見学
8:30	山小屋 出発	・準備体操 ・研究見本園の散策
	山小屋 到着	
11:00	昼食	・天気がよければ班ごとに外で昼食 ・雨天の場合は、食堂や避難小屋で昼食
11:45	山ノ鼻地区 出発	
13:15	鳩待峠 到着、トイレ休憩	・健康観察
13:30	鳩待峠 バスに乗車して出発	
16:30	学校到着	

ポイント

- ・早朝の尾瀬ヶ原には、朝露や朝霧、幻想的な日の出など子どもの体験を豊かにしてくれるものがたくさんあります。

ポイント

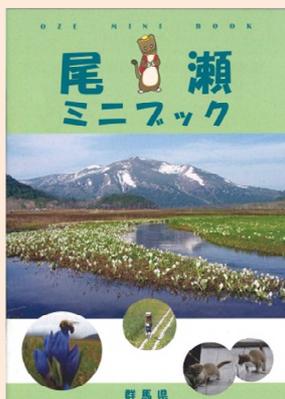
- ・トイレチップを払う理由や自然を守るしくみを実感できます。

ポイント

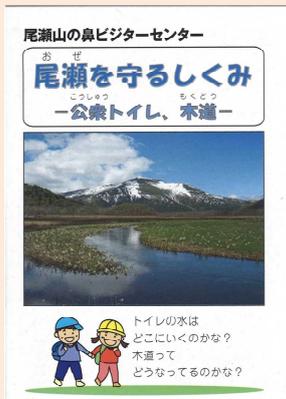
- ・研究見本園やビジターセンターでは、尾瀬に咲く湿原植物と尾瀬の自然の概要について学ぶことができます。

コラム③ 尾瀬学校を実施する学校に、尾瀬保全推進室から配られる資料

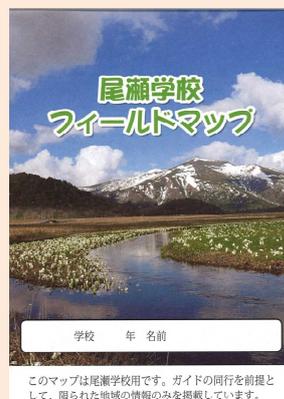
○尾瀬学校を実施する学校には、群馬県尾瀬保全推進室より市町村教育委員会を通じて子どもたちへの資料が事前に配布されます。担当ガイドが各学校に来校して行う事前学習の前に、子どもたちが目を通しておくようにしましょう。



尾瀬ミニブック(A5版)



尾瀬を守るしくみ
(リーフレット)



尾瀬学校
フィールドマップ

6 山小屋宿泊 Q&A

○尾瀬周辺は大小様々な山小屋が点在しています。自然の中にある山小屋は都市部や観光地の宿泊施設とは異なるルールやマナーがあります。指導者がそのことを十分理解して、宿泊の計画を立て、児童生徒に自然保護の大切さを実感させられるようにしましょう。

Q 山小屋とは、どんなところですか？

- ・交通が不便な山の中にある宿泊施設であるため物資や生活環境に制約があります。
- ・布団は、敷・掛布団、毛布、枕が寝具として用意されています。シーツは有料で貸し出されたり毛布で代用されたりしています。消灯時間はほとんどの山小屋で9時と決められています。
- ・寝巻用として、ジャージなどを用意しましょう。



Q 山小屋では、お風呂に入ることができるのですか？

- ・ほとんどの山小屋には、風呂の設備があり基本的には毎日入ることができます。ただし、一度に入れる人数は一般的に2～6人と多くありません。
- ・自然保護のため、石けんやシャンプーは使えません。軽く汗を流して湯船につかって体を温める程度と考えておきましょう。
- ・歯磨き粉も使えません。歯ブラシで磨くだけでは気持ち悪い場合は、ガムなどを持参するとよいでしょう。



Q 山小屋での食事はどのようなものですか？

- ・朝食や夕食は、山小屋の食堂で食べることができます。季節にもよりますが朝食は5時30分から7時、夕食は17時30分頃からが一般的です。また、食堂の広さや利用する人数によって2班に分けて食事と入浴の時間を組ませるなどの工夫が考えられます。
- ・注文により2日目の昼食（お弁当）を用意してもらうことができます。



Q 夜の活動や早朝の活動でもガイドさんに同行してもらえますか？

- 基本的に、ガイドは同行する学校と同じ山小屋に宿泊しますので、夜の活動や早朝の活動に同行してもらうことは可能です。夜や早朝の活動は、クマ対策など安全への配慮が必要な場合があります。事前打ち合わせの時に活動の希望を伝え、専門的な知識をもつガイドに同行してもらいましょう。



Q 宿泊する場合、日帰りの時の持ち物の他に何が必要ですか？

日帰りの必要最小限の持ち物

- ◇弁当
- ◇水筒(1リットル程度、ペットボトル可)
- ◇レインウェア
- ◇行動食
- ◇帽子
- ◇リュック
- ◇着替え(Tシャツ、靴下)
- ◇軍手
- ◇タオル
- ◇ビニール袋
- ◇ゴミ袋
- ◇しおり
- ◇ちり紙
- ◇防寒着
- ◇筆記用具
- ◇小銭数枚(トイレ代)

宿泊で必要になる持ち物

- ◇洗面道具(歯ブラシ)
- ◇就寝用ジャージ
- ◇下着の替え
- ◇懐中電灯

- 尾瀬学校を実施する季節によって、朝晩は冷え込むことがありますので、防寒着が必要になる場合があります。
- 荷物は両手があくリュックに入れましょう。鳩待峠から山ノ鼻、一ノ瀬から尾瀬沼までは、坂があったり歩きにくい場所があったりします。
- 不意の事故や病気に備えて、保険証のコピーを用意しておきましょう。



Q 一般のお客さんと一緒になることはありますか？

- 山小屋によっては、貸し切りで宿泊させてもらえます。貸し切れる最低人数は、山小屋によって異なるので、P9～10を参照してください。
- ミズバショウやニッコウキスゲのシーズン、土日、祝日などは、貸し切りができない場合もあります。山小屋に宿泊予定日、人数等を伝え、貸し切りができるか相談してください。
- ルールやマナーについて考えさせるためには、一般の方と共に宿泊することも、児童生徒にとって貴重な体験の場として捉え、指導に生かすことも考えましょう。



7 尾瀬ヶ原での危険に備える

(1) 落雷の対策

尾瀬現地ガイドが同行しているときは、ガイドの指示に従いましょう。

- ①山ノ鼻地区から尾瀬ヶ原を散策する予定のとき、雷注意報が出ているときには、山ノ鼻地区から25分ほどの距離にある牛首三叉路を越えないようにしましょう。(下図参照)
- ②雷鳴が聞こえるときは、尾瀬ヶ原に出ないようにしましょう。
- ③雷鳴が聞こえるときは、鳩待峠や大清水への下山も危険です。下山途中でも雷鳴が聞こえ始めたら、この後の行程についてガイドと相談しましょう。

※雷の警報や注意報に関する情報は、毎日、山の鼻ビジターセンター前に掲示しています。ガイドは、尾瀬ヶ原に入る前に確認しています。



尾瀬ヶ原の中は、高い木がほとんど生えていない広い湿原のため、安全の確保が困難です。同行しているガイドの指示にしたがって、速やかに行動してください。



(2) クマの対策

クマは食べた植物の種をフンといっしょに運んで、植物が生きていく場所を広げるなど、自然のつながりの中で大切な役割を果たしています。尾瀬地区にはツキノワグマが生活しています。尾瀬はもちろん日本の各地で人とクマの生活する場所が重ならないよう、すみわけができる対策の研究が行われています。

尾瀬のクマは、木道を横切るときや採食している姿が多く目撃されています。昼間は滅多にクマに出会うことはありませんが、特に山すそや川の近くでは注意が必要です。

また、明け方や夕暮れ時は、クマの行動が活発になります。単独行動は危険ですので避けましょう。やむを得ず歩く場合は、鈴等の音の出るものを携行しましょう。

もしクマに出会ってしまったら、ガイドに従い、落ち着いてその場から離れましょう。特に子グマには注意をする必要があります。見えなくても、近くには子グマを守ろうとする親グマがいます。クマを驚かすので、大声を出したり走って逃げたり、写真をとらないように、児童生徒に十分指導しておきましょう。

クマと出会わないために

- ①鈴や笛で自分の存在を知らせる
- ②朝夕の薄暗い時間帯は要注意
- ③霧、川沿い、山すそも要注意



ミズバショウを食べるクマ

クマと出会ってしまったら

- ①あわてない
- ②さわがない
- ③走って逃げない



ミズバショウの実を食べ種を運ぶ

(3) 危険植物の対策

植物ではツタウルシとヤマウルシに注意しましょう。不用意に触るとかぶれてしまいます。写真を参考にして、見つけても触れないようにしましょう。



ツタウルシ



ヤマウルシ

(5) 熱中症の対策

尾瀬ヶ原に出ると、日を遮るものがほとんどありません。帽子をかぶりこまめに水分をとることを心がけましょう。夏場は、スポーツドリンクなど、水分と一緒に塩分が補給ができるものを選びましょう。

水筒の水の補給は、山の鼻ビジターセンター付近で行うことができますが、尾瀬ヶ原の中に入ったら山小屋に行くまでできません。引率者は余分に水分を準備しておきましょう。

○ 空腹よりも怖い脱水状態

人の体は約6割が水分です。この水分は体の各所へ栄養を運び、体を維持する大切な役目をしています。登山中には大量の汗をかきますが、汗がしょっぱいことからわかる通り、塩分も出ていくので体のミネラルバランスが乱れます。この水分とミネラルの乱れが脱水状態なのです。

○ 効果的な水分補給はどうすれば良いのか

日常生活でも1日最低約2リットルの水分が必要です。脱水状態にならないために、行動中は1リットル以上の水筒を持ち歩き、のどが渇く前に水分をこまめに取りするようにします。

スポーツドリンクは水分以外にもミネラルが吸収しやすい濃度で作られてるので、炎天下で大量の汗をかいた時には大変有効です。また、ゼリー状のものは液体よりも胃を通過する時間が遅くなるため、効果的に水分を補給することができます。



コラム④ 尾瀬で体調が悪くなった児童生徒を担架を使って搬送するときの費用



担架で搬送する場合には、教員とガイドで搬送が可能であれば、搬送費用は発生しません。教員とガイドで搬送ができないときに山小屋の職員等に依頼をすることになった場合は料金が発生します。この場合の料金は、一度料金を立て替えて頂いて、後日尾瀬保全推進室にその旨を連絡してください。搬送代として発生した料金については、補助の対象となります。

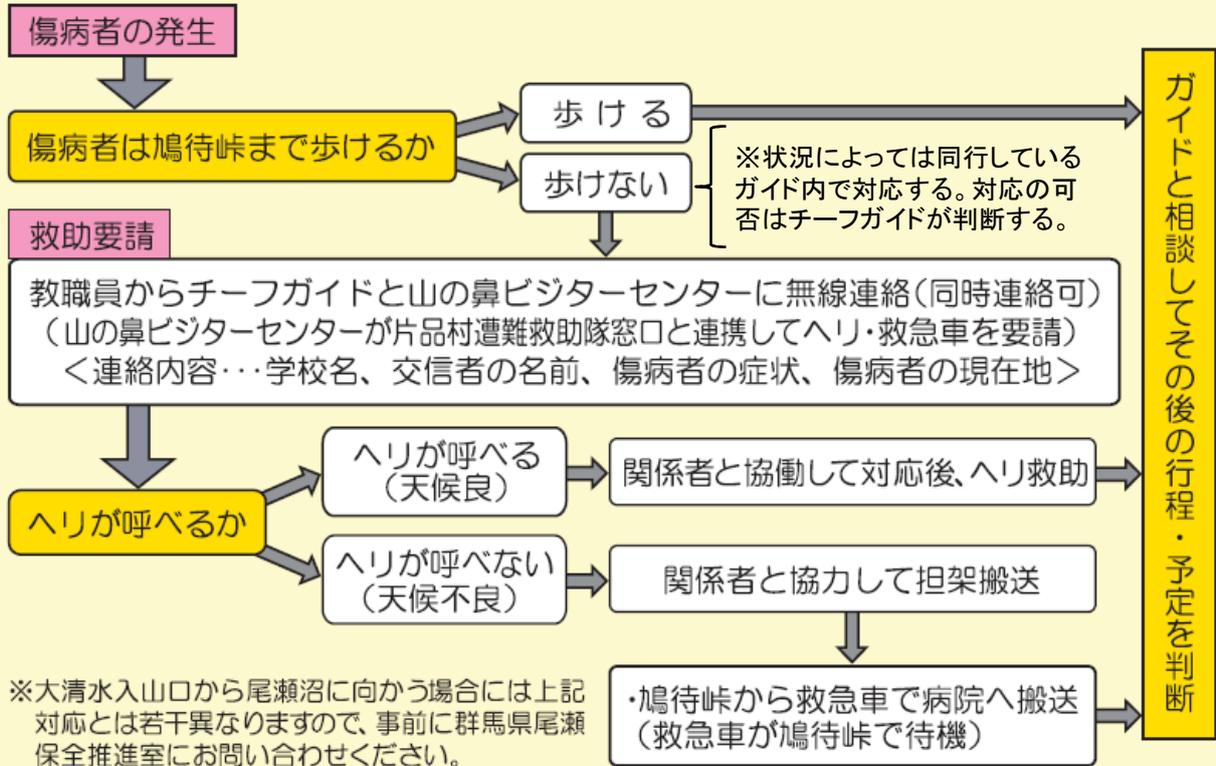
コラム⑤ 水分補給とは別に、水道水を入れたペットボトルを用意すると役立つ

木道などで転んで擦り傷、切り傷となってしまった場合、傷の汚れを洗い流すためには水が必要となります。スポーツドリンクでは対応できないため、水道水を入れたペットボトルが役に立ちます。引率者は必要に応じて用意しておきましょう。

さらに、小さな穴を一つ開けたペットボトルのキャップを別に一つ用意しておく大切な水を余分につかうことがなくなるので便利です。



8 緊急時の連絡について



【救助の際に必要な情報】

・けが人の氏名・年齢・性別・住所・連絡先・学校名・症状・どこでケガをしたのか(現在地)

緊急時の近隣関係機関

利根沼田広域東消防署
(沼田市利根町)

TEL : 119

沼田警察署

(沼田市上原町)

TEL : 0278-22-0110

尾瀬交番

(片品村大字鎌田)

TEL : 0278-58-3144

沼田病院
(国立病院機構)

沼田市上原町1551-4

TEL : 0278-23-2181

利根中央病院

沼田市沼須町910-1

TEL : 0278-22-4321

片品診療所

片品村大字鎌田3946-67

TEL : 0278-58-3910

星野医院

片品村大字鎌田3973

TEL : 0278-58-2018

9 トランシーバー(尾瀬学校用無線機) Q&A

○尾瀬ヶ原を散策する際、緊急時に連絡を取る手段は携帯電話が通じないため、トランシーバー(尾瀬学校用無線機)に限られます。県教育委員会では、引率者同士、チーフガイド、山の鼻ビジターセンターと連絡がとれるトランシーバーの貸出を行っているため、使用上の注意を確かめた上で安全確保のために活用しましょう。

Q トランシーバーは何台借りられますか？

- ・トランシーバーは、原則として参加する学校の学級数の台数を貸与します。(1学級の場合は2台)ただし、トランシーバーは全12台のため1日の貸与数の合計が、これを超える場合には学級数分の貸与ができない場合もあります。逆に、1日当たりの貸し出し数の合計に余裕があれば、学校の希望に応じ指定の数を超えて貸与する場合があります。
- ・各学校への貸し出し数は、毎年5月頃に、県教育委員会から市町村を通じて連絡する「トランシーバー貸与に関する事務連絡」でお知らせしていますので、詳しくは、そちらで確認してください。



Q トランシーバーは緊急時以外の利用はできないのですか？

- ・トランシーバー(尾瀬学校用無線機)は共通のチャンネル(7チャンネル)で使用することにしていますので、その日に尾瀬学校に参加しているすべての学校とチーフガイド、山の鼻ビジターセンターが同時に受信することになります。
- ・尾瀬の自然を満喫するにはトランシーバーで関係のない会話が頻繁に聞こえてくることは好ましいことではありませんので、原則として次のような緊急時の連絡を想定しています。

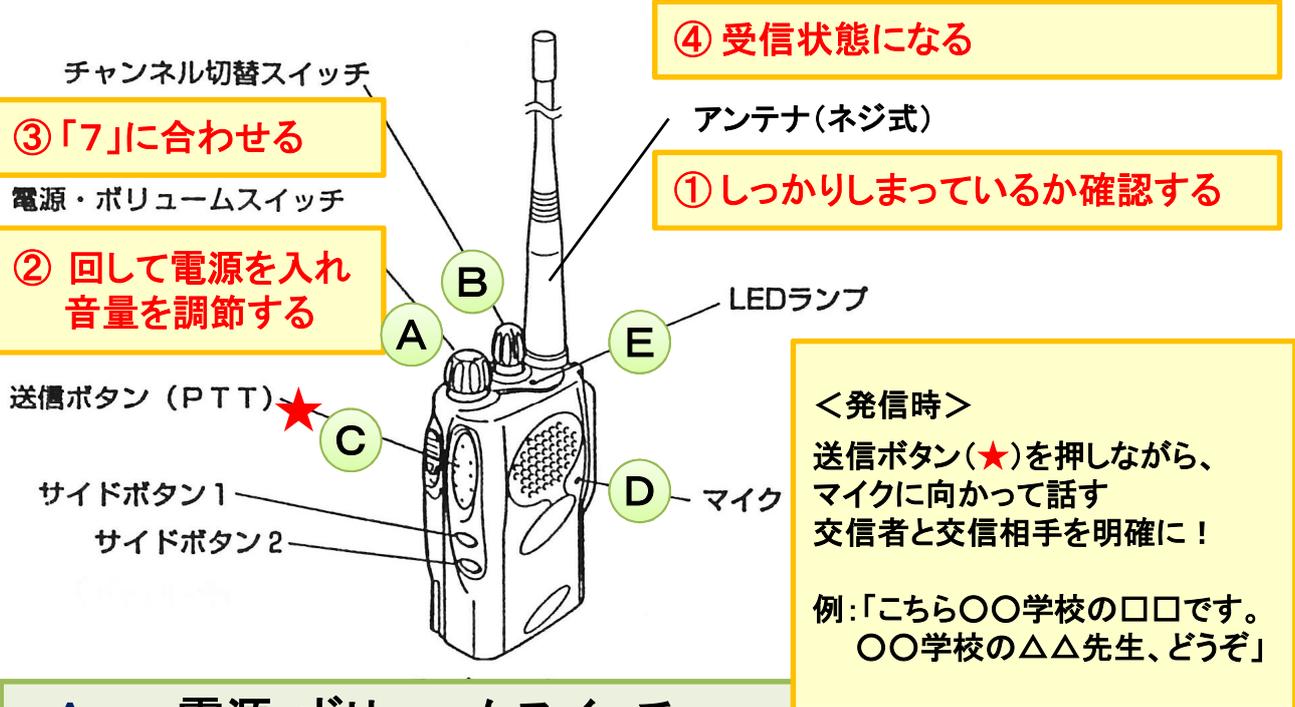
- 1 事故が起こってけが人が出た、病人が発生した、行方不明になった。
- 2 予定を変更する。

<トランシーバーを扱う際の留意事項>

- ①鳩待峠到着後、「鳩待山荘」にて借用手続きをとり、尾瀬学校終了後に「鳩待山荘」にて必ず返却手続きをしてください。
- ②トランシーバーは、教職員が所持してください。1台は、緊急時とっさの判断ができる責任者が持つようにしてください。
- ③トランシーバーは、電源を入れなければ使えません。受信もできません。借り受けたらすぐに電源を入れ、返却するときには電源を切ってください。
- ④落下や紛失に十分気を付けてください。
- ⑤チャンネルは「7」に合わせてください。チャンネルがずれると通話できません。
- ⑥送信の際には、トランシーバー側面の送信ボタンを押しながら話してください。送信ボタンを放すと受信状態となります。(借り受けたらすぐに交信の確認をしてください)
- ⑦交信の際には、「〇〇学校の□□です。〇〇学校の△△先生、どうぞ」というように交信者と交信相手を明確にしてください。

Q トランシーバーの操作はどうするのですか？

各部の名称と機能



A : 電源・ボリュームスイッチ

無線機の電源のオン・オフ及び音量の調整に使用します。

B : チャンネル切替スイッチ

チャンネルの切り替えに使用します。

C : 送信ボタン (P T T)

送信ボタンを押し続けている間送信します。離すと受信状態となります。

D : マイク

送信するときはマイクに向かって話します。

E : LEDランプ

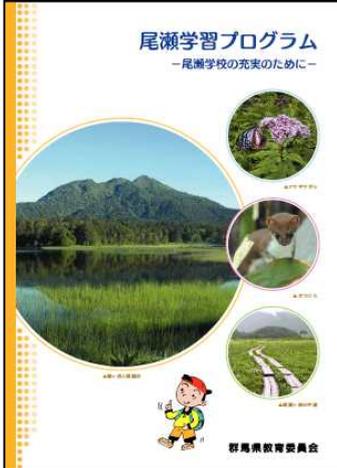
送受信の状態、バッテリーの状況、電源の状況などを点滅・点灯により表示します。

※ 故障した場合は 鳩待山荘の係員に申し出てください。

10 その他の尾瀬学習プログラム

群馬県自然環境課尾瀬保全推進室と群馬県教育委員会では、尾瀬学校を充実したものにするために平成24年までに尾瀬学習プログラムを3編作成しました。各冊子は、群馬県教育委員会各課室発行・提供資料にアップしてあります。必要に応じてダウンロードしてご利用ください。

http://www.karisen.gsn.ed.jp/boe/htdocs/index.php?action=pages_view_main&page_id=51



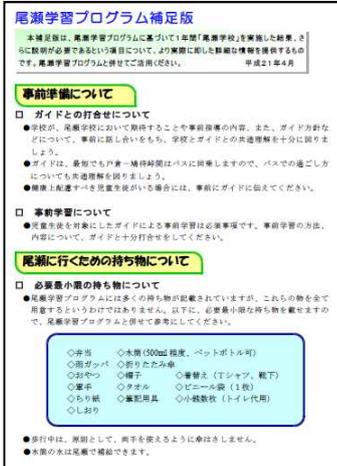
尾瀬学習プログラム —尾瀬学校充実のために— ＜主な内容＞

- 尾瀬のあらまし
- 尾瀬での学習にあたって
- 尾瀬に行くための持ち物・服装
- 服装・装備等についての詳細情報
- モデルコース・尾瀬学校全図
- 教育課程への位置付け例
- 事前・事後学習のポイント
- 尾瀬高校の活用
- 参考資料著作権



尾瀬学習プログラム —学習活動編— ＜主な内容＞

- 「尾瀬学校」の環境学習を進めるための学習計画例
- 課題追究の活動例
- 外部機関との連携・活用
- ガイドとの連携Q&A
- 雨の日の対応Q&A
- 尾瀬学校実施に係る注意事項
 - (1) トランシーバーの活用について
 - (2) 緊急時の連絡について
 - (3) トイレチップについて
 - (4) 子どもたちへの配布資料について



尾瀬学習プログラム補足版

＜主な内容＞

- 事前準備について
- 尾瀬に行くための持ち物について
- 特別な支援を必要とする児童生徒への対応について
- 安全管理・連絡体制について

- 弁当
- 水筒(500ml程度、ペットボトル可)
- 雨具(レインコート)
- 帽子
- 着替え(Ｔシャツ、靴下)
- タオル
- ビニール袋(1枚)
- 折り紙
- 筆記用具
- 小紙数枚(トイレ代用)
- しおり

- 歩行中は、原則として、両手を使えるように傘はさしません。
- 本溪の水は尾瀬で凍結します。



尾瀬学習プログラム ー山小屋宿泊編ー
平成25年9月 発行

発行者 群馬県自然環境課尾瀬保全推進室
〒371-8570 前橋市大手町1-1-1
TEL 027-226-2881
FAX 027-220-4421

群馬県教育委員会義務教育課
TEL 027-226-4615
FAX 027-243-7759

